

# 20th DOMANI・明日展 The ART OF TOMORROW 寄留者の記憶

# 一礼

「礼」創刊号  
発行日 2018.3.8(木)  
編集者 近藤洋加  
都立富士高校

## ざわざわする

私は高校で茶道を志すやうとする  
なかで胸騒ぎをおぼえる。私は人と  
話そうと思う。

二〇一八年二月 日本のアートシ  
ニ十二日、新国立美 ーンを探ろうと  
術館へ、二〇二〇年 試みた。しかし  
東京オリンピック、 発見したものは  
パラリンピック 「自分」だった。  
を見据えた文化  
プログラムで訪  
れた。

あなたは、「私」をどんな  
人間だと受けとってくださるか  
現代美術の  
現場といま

## 編集デザイン

海外研修を経  
て寄留した経験  
を落とし込み、

彼らは現代に  
生きる私たち  
に問う。  
人はこの場  
所を訪れ、作  
れを見守るのか

## 私たちの目的は

彼らを見る  
人に解釈を委  
ねる。そして  
何を思っ  
れを見守るのか

# 少女の瞳はわたしを超えゆく

## 私だけの「名画」を紹介

晩まれている 抱き抱えた女  
のかと思っ た。 の子。 胸の奥  
あどけなくて がざわめいた。  
薄い目をした女。 向き合っ  
の子の視線の先 かに怯えて、誰  
に、私が入っ た かを覗みつけ  
の。私が入っ た ていたのは、

中谷ミチコ のだ  
▲《カラスの女の子》 2017  
▼《逆光》 2017  
photo: 近藤洋加



カラス達を 「私」だった。

目を合かせたま  
ま、そっと彼女  
への視点を変え  
た。瞳は追っ  
きて、追いつい  
て。そして飛び超え  
た。少女の世界、  
白いキャンバス、  
遙か遠くの景色  
を見ていた。

## ありがとう

現代美術の世  
界に共に足を踏  
み入れ、取材を  
通して交流を深  
めたのは福島で  
キャンパスをやる高  
校生。意味のあ  
らものを解釈を  
なおすことを現

今回のプログ  
ラムでの出会い  
に感謝を入れて  
滞らず、水の  
まじりに乗か  
たいと思う。そ  
して礼を大切に  
したいという一  
つの思いを持っ  
た。タイトルの  
由来である。  
代美術から学び  
物語性を持たせ  
ることや、感動  
を生みだすこと、  
それらの喜びを  
教えてくれた。  
文化が違う捉え  
方が違うことを  
知った。  
文化は人と共  
にある。文化の  
交流は今、私の  
生活の中にある。

## 洋加の後記